

# ハクサイ (アブラナ科)

| 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月   | 9月   | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
|----|----|----|----|----|------|------|-----|-----|-----|----|----|
|    |    |    |    |    | タネまき | 植えつけ |     |     |     | 収穫 |    |

## 品 種

【早生種】耐病六十日白菜、さくみどり2号、翠緑

【中晩生種】王将、あこがれ、雪風

## 栽 培 ポ イ ン ト

●栽培時期● ハクサイはキャベツと同じように、生育前半に外葉を十分に作ることがたいせつです。生育適温は15～20度、結球には15～16度が適しています。したがって、低温期に入る前に結球に必要な葉数になるように、適期にタネをまきます。

一般に、まきどきは限定され、8月下旬～9月上旬が作りやすい時期です。早まきすると、アブラムシの媒介によるウイルス病の発生が多くなり、反対に遅れると、結球が小さくなるか、結球しなくなります。

●土作り● 根は細くて、地中深く張るので、肥沃で耕土が深く、通気のよい土作りをすることがたいせつです。元肥えは、他の野菜よりも多めに施します。また、結球前までに肥料切れにならないよう、追肥も重要です。

作り方には、じかまき栽培と移植栽培とがあります。どちらの作り方でもよいのですが、栽培本数が少ない場合は、じかまき栽培よりも移植栽培のほうが管理の手がゆき届き、病虫害や乾燥の害を防ぐことができます。

●じかまき● じかまきには、条まきと点まきの方法があります。条まきは生育に応じて株間が調節でき、間引き菜も利用できますが、間引きがたいへんです。ですから普通は、点まきをします。まきどきが高温乾燥期なので、降雨のあとにタネまきをするのが最もよいのですが、雨が期待できない場合は、畝全体に水やりしてから、まきます。

発芽後は間引きが重要です。1本立ちにするまでに3回ぐらい間引きをします。間引きの時期が早すぎると、初期の生育が阻害されて発育がよくありませんし、遅れると、葉が重なり合って光線の当たり方が悪くなり、よい球ができません。

間引き後の追肥も重要です。1回目は最後の間引き後、2回目はその14日後ぐらい、最後の追肥は結球が始まる前に終わらせま。しかし、葉色や生育状況によって、臨機応変に調整する必要もあります。特に、長雨のあとは肥料切れを起こしやすいので、追肥が必要です。

●移植栽培● 移植栽培は、本葉4～5枚まで育苗して畑に植えつけます。適期にまいても、床土や管理が悪いと鉢が乾燥して、苗の育ちがむらになるので注意します。育苗中の水やりやアブラムシの防除は、よい苗作りのポイントです。

植えつけは浅めに行いますが、風にもまれると株が傾くので、株元に少し土寄せをします。

●管理● 追肥は、植えつけ後15日ごとに2回ぐらい施します。最後の追肥のころになると、茎葉が繁茂しており、根も土中に張りめぐらされているので、畝間に肥料をまくだけでよいのです。

結球が始まったら、球内へ害虫が侵入しないように、薬剤散布を中心とした管理をします。

霜がおりるようになったら結球部を外葉で包んで、傷みを防いでやります。しかし、厳寒には耐えられないので、その前に収穫します。

●収穫● タネまき後、早生種は60日、中晩生種は80～100日ぐらいが収穫の目安です。結球部がかたくしまったものから収穫します。

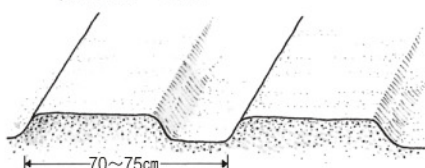
## 栄 養

栄養価はあまり高くありませんが、ビタミンCは比較的多く、レタスよりは多く含み、カロチン、カルシウムなども含んでいます。ビタミンCは切りとってから時間が経過すると減少します。

## 1 畑 作 り

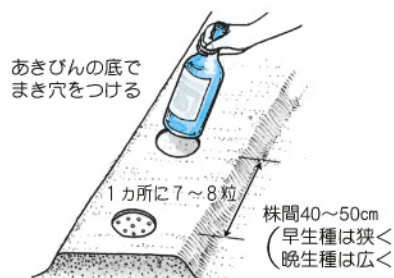
畑には、あらかじめ苦土石灰（1㎡あたり2握り）をまいて耕しておく。タネまきの1週間前に、元肥えを全面に施し、よく耕して畝を作る。排水の悪い場所では高畝にする。

元肥え（1㎡あたり）  
（堆肥 バケツ1.5杯  
化成肥料 2握り）



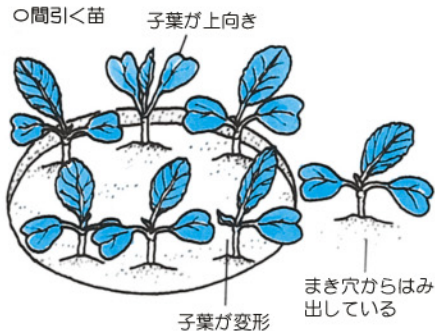
## 2 タネまき

畝の中心に丸いまき溝をつけて水をやっておく。水が引いてからまき溝にタネをまく。5mmぐらい覆土し、上からくわなどで軽くおさえる。



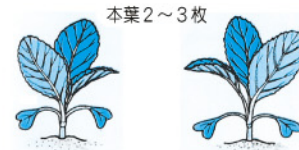
### 3 最初の間引き

タネまき後10日ぐらいで、最初の間引きをする。これは多少早くても遅くてもさしつかえない。子葉が異常なものや、まき溝の外に生えているものなどを間引き、正形の株を4～5本を残す。



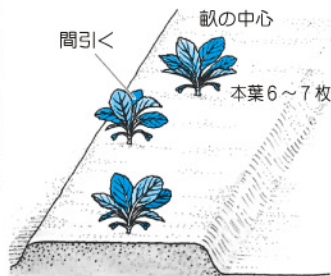
### 4 2回目の間引き

第1回の間引きから1週間ぐらいあと、本葉2～3枚のころに2回目の間引きをする。生育が平均的で、病害虫のない株を残し、葉が重なり合わないよう注意する。



### 5 最後の間引き

2回目の間引きの1週間後くらい、本葉6～7枚になったら3回目の間引きをして、1本立ちにする。畝の中心にあって、その品種の特性をそなえ、平均的な生育をしている株を残す。

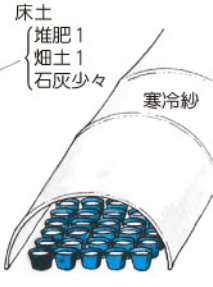


### 6 苗作り(移植栽培)

#### ○タネまき

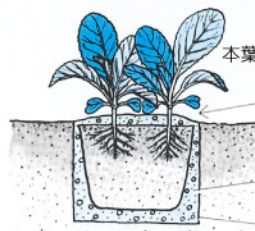
床土を入れたポリ鉢に、4～5粒ずつタネをまき、5mmの覆土をする。タネまき後、水をやり、寒冷紗をかけて育苗する。

タネを4～5粒まく



#### ○間引き

発芽後、本葉が始めたときに間引き、その後は全体の込みぐあいを見ながら、本葉3枚ごろまでに2本立ちにし、育苗期間20日ぐらいで本葉4～5枚に育てる。



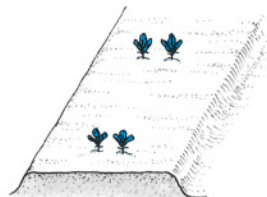
株元が風でふり回されない程度に土をかける。深植えないこと

植え穴

ダイアジノン粒剤をまぜアブラムシを予防

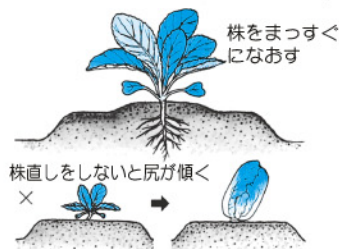
### 7 植えつけ(移植栽培)

苗が老化すると根づきが悪いので、本葉4～5枚の苗を畑に植えつける。畝に植え穴を作り、前もって水をやり、苗鉢にも植えつけ前に水をやって、根土をくずさず抜き、深植えしないで植える。



### 8 最後の間引きと株直し

じかまき栽培も移植栽培も、本葉6～7枚のころ1本立ちにするが、その際、残す株の株元を手でおさえ、傷めないように、ていねいに間引く。残した株がふたつかないよう、少し土寄せする。



### 9 追肥

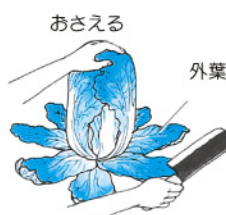
1回目の追肥  
2回目の追肥  
3回目の追肥



追肥は2～3回、化成肥料を1株に軽く1握りずつ施す。2回目までは畝の肩に施し、中耕しながら土寄せする。最後の追肥は畝間にばらまくだけにする。くわを入れたと根を切り、生育を害する。

### 10 収穫

手で頭をおさえてみて、かたく結球したものを包丁で株元から切りとる。



#### 主な病害虫

◆病気 ベト病、軟腐病、ウイルス病、根こぶ病  
◆害虫 アブラムシ、アオムシ、キスジノミハムシ、ヨトウムシ

### 11 防寒と貯蔵

外葉で結球を包み、わらやひもで縛ると、おそくまで畑におくことができる。結束するものは、軽い霜に2～3回当てたあとがよい。



わらやビニールひもで結束する。結束が早いと生育が悪い。おそいと凍害を受ける

寒さが厳しい場合は、収穫して、外葉をとり除き、4～5日陰干ししたあと、1株ずつ新聞紙で包み、みかん箱などに入れて温度の低い(1～2度が適温)場所におく。

